

慢性胃炎の治療＝ピロリ菌の除菌（2013年2月より健康保険適用）

今まで慢性胃炎の治療は制酸剤、胃粘膜保護剤、消化管運動改善剤、消化剤などの対症療法でした。

しかし慢性胃炎の80%がピロリ菌という細菌が原因であることがわかり、根本的な治療の時代になりました。

ピロリ菌に殺菌作用のある抗生物質を服用することで、その原因を断つ根本治療が健康保険で認められたのです

慢性胃炎には粘膜表面が赤く炎症する表層性胃炎、胃粘膜がただれる糜爛性胃炎、ただれの周囲がいぼ状に腫れる疣状胃炎、そして最終的に胃粘膜が委縮する委縮性胃炎があります。

そして委縮性胃炎になると胃癌の発生が増加するため、前癌病変ともいわれています。

このように胃癌をひきおこす発癌物質として知られているピロリ菌。これまでピロリ菌の除菌治療は胃・十二指腸潰瘍に限られていましたが、2013年2月から慢性胃炎も健康保険の適用になりました。これは胃癌を減らすためには慢性胃炎の、しかも委縮性胃炎になる前の軽い段階から除菌しないと効果が低いとわかったためです。

ピロリ菌の除菌治療について詳しくお知りになりたい方はお気軽に担当医にご相談下さい。

NBI 拡大内視鏡システム

当院では従来から高解像度の最新鋭の機器を駆使し、上部、下部消化管の早期癌の発見に努めてまいりましたが、今回さらなる高精度の検査を可能にするために NBI 拡大内視鏡システムを導入致しました。

NBI とは？

Narrow Band Image (狭帯域光観察) の頭文字をとったもので、二つの短い波長の光を粘膜にあて、粘膜の微細な表面構造や毛細血管をくっきりと写し出すことが出来るシステムです。

NBI の臨床での応用

消化管の早期癌ではまず粘膜表面の毛細血管に変化が現れます。活発に増殖する癌細胞は栄養を運ぶ血液を多量に必要とするため、病巣には毛細血管の異常増殖が見られてきます。NBI で観察することによりこの毛細血管の変化をいち早くつかまえ、超早期のがんを見つけ出すことが可能となります。

